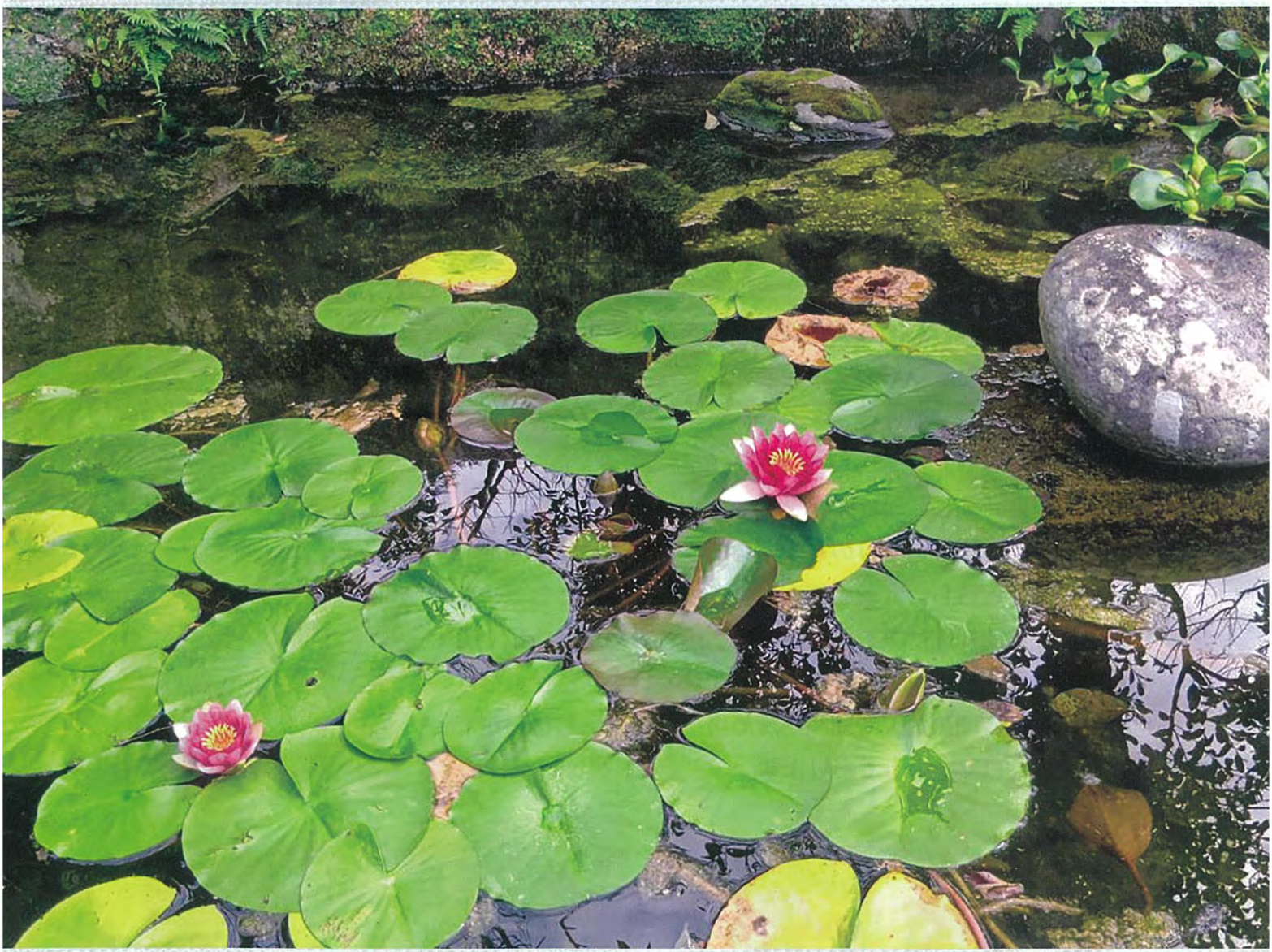
医療法人 猪鹿倉会 パールランド病院 広報誌

パール通信

Pearlland Hospital pearltsushin

第24号
夏
2025 Summer



撮影場所：橘神社（雲仙市）

女性が活躍しています！

CONTENTS

- 介護未経験からの現在にいたるまで
- インドネシアからの新しい仲間を紹介します
- 診療技術部紹介
- Dr. によるミニコラム：「背もたれ、必要なほうですか？」
- Nrs. によるミニコラム：「高齢者の脱水と水分補給の必要性」

介護未経験からの現在にいたるまで

～介護職　私の場合～

パールランド病院 ３病棟２階　介護福祉士　松山　恭恵

パールランド病院では様々な職種が連携して働いています。私が未経験で病棟業務に携わる看護助手として入職してから現在に至るまでを紹介します。

パールランド入職前は接客業や事務員として働き、結婚後は専業主婦として生活していました。出産を機に今後の生活のために働きたいと思うようになっていましたが、いざ社会復帰しようにも小さい子供を抱えながらの就活に苦労しておりました。そんな中で「パールランド病院は働きながら育児がしやすい職場。未経験からでも大丈夫」と実際のスタッフの話を聞いたことがきっかけで入職することになりました。

入職当初は、介護未経験であったことから患者様と直接携わる業務に緊張しっぱなしでしたが、当時の先輩、同僚に教えてもらいながら従事することができました。夜勤業務も初めての経験でしたが、病棟３人体制での夜勤なのでわからないことは直接夜勤スタッフに聞く事ができ、業務をこなすことができました。当時は育児と仕事を両立しながらでしたが、「働きながら育児がしやすい職場」という話通り、急な残業もなく、子供の病気の時はしっかり休暇をとることができました。

職員教育や現場での学びのおかげもあって、経験年数を経て介護福祉士を取得し、介護支援専門員を取得することもできました。現在は認知症ケア専門士として、患者さんが安心して生活がおくれるよう寄り添った対応を心がけています。仕事後は自分のために夜間の短大で知識を深め自己研鑽に励むことができ、充実した日々を送っております。

インドネシアからの新しい仲間を紹介します

令和７年４月より，インドネシアから８名の方が看護補助者として入職しました。研修を交えながら，病棟での業務に励んでいます。生活面での戸惑いや，鹿児島弁にもまだ慣れない様子ですが，何事にも笑顔で一生懸命に取り組んでいます。今回は２期生ということもあり，１期生との交流で培った経験を基に一緒に頑張っていきたいと考えております。

①趣味　②好きな食べ物　③日本で行きたい場所　を聞いてみました。

レオニ　アンゲェラ　マナル（レオニ）
LEONI ANGELA MANALU
①音楽鑑賞　②ラーメン・寿司　③渋谷・富士山

ザルサ　プトリ　ナビラ（ザルサ）
ZALSA PUTRI NABILA
①アニメ鑑賞　②ピザ　③東京ディズニーランド

シルヴィア　ドゥイ　ラハユ（シルヴィア）
SILVIA DWI RAHAYU
①料理　②うどん・から揚げ　③名古屋・大阪・東京

シファ　ソフィア（シファ）
SYIFA SOFIA
①卓球　②寿司・たこ焼き　③道頓堀・渋谷

リリン（リリン）
RIRIN
①料理　②ラーメン・揚げ物　③東京・京都

シャフィラ　フィトリ　ムリヤニ（シャフィラ）
SHAFIRA FITRI MULYANI
①アニメ鑑賞　②たこ焼き・寿司　③東京ディズニーランド

ユリア　スリ　ラハユ（ユリア）
YULIA SRI RAHAYU
①料理　②ラーメン　③東京ディズニーランド

ジュリア　トリ　ウタミ（ジュリア）
JULIA TRI UTAMI
①水泳　②ラーメン・から揚げ　③東京・渋谷・京都

診療技術部紹介

診療技術部は、2024年４月１日に組織改編し、新しい部署として設置されました。病院の中で患者様がスムーズに治療を受けられ、安心して入院生活が送れるよう支援するために、様々な専門分野のメンバーで構成された部署です。私たちは、下記の診療技術部理念を掲げ、職員全員で取り組んでいます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

専門職の英知を以て　こころに笑顔の種を届ける　チーム医療を目指します

診療技術部 部長　吉松　昌代

栄養科

栄養科には管理栄養士２名が在籍して、主に患者様の栄養管理計画書作成や褥瘡栄養管理、摂食・嚥下障害等の「栄養管理」を行っています。献立作成や発注、調理・配膳・洗浄、食中毒対策等の「給食管理」は委託会社に委ねています。患者様にとって三度の食事が何よりの楽しみですので、「おいしいね」と笑顔になって貰えるような安全で美味しい食事提供を心掛けています。

放射線科

主な検査内容としては、一般撮影装置やポータブルX線装置によるレントゲン撮影や、CT撮影などです。

レントゲン撮影では胸部や腹部の撮影が多く、肺炎や腸管内のガスや便の状態を確認しています。

CT撮影では、頭部CT撮影の頻度が高く、認知症の鑑別診断のための検査や脳卒中の方の定期的な検査などを行っています。

薬剤科

５名の薬剤師が、調剤や、薬剤管理指導、注射薬の準備、医薬品の採用・購入・管理などを行っています。患者様ごとに最適な薬物治療のために、医師や他の職種と連携をとるように努めています。おくすりに関する疑問などありましたら（おくすりの作用を知りたい、おくすりを減らしたいなど）ご相談ください。お待ちしています。

臨床検査科

検体検査室と生理検査室の２つの部屋があります。

検体検査室は、患者様から採取した検体（血液や尿など）を使用して成分や特性を調べる部屋です。生理検査室は、患者様自身の体を直接検査する部屋で、検査機器を体に取り付けて検査します。心電図、脳波、血圧脈波を行っていて、病棟にも出向いて検査をしています。

理学療法科

①関節可動域や筋力などの運動機能の回復
②起きる・立つ・歩くなど基本的動作能力や日常生活動作（ADL）の習得
③神経痛やケガなど急性・慢性の痛みのコントロールを目的に、５人の理学療法士が１対１で運動療法や物理療法などのリハビリを提供します。患者様の日々の生活リズム形成にも役立っています。

作業療法科

病気や障害によって生活のしづらくなった方に対して、作業や活動を通して自分らしさを取り戻すために、こころとからだのリハビリを行っています。

言語聴覚科

脳卒中や認知症などにより、コミュニケーションや食べることに障害を持つ方々の言語や聴覚、摂食嚥下機能の回復・維持を目指します。具体的には、話すことや食べることに障害のある方に対して、多職種と連携して検査・評価を実施し、指導や助言、個別や集団でのリハビリを行います。

臨床心理科

認知面・精神面に関わります。

心理検査や観察などの評価を通して必要な支援を探り、他職種と連携しながら「その人らしい生活」を送れるよう一人一人に合わせたアプローチ（個別面接やグループ療法等）を実施しています。また、認知症疾患医療センターの業務にも携わっています。

Dr.による ミニコラム「背もたれ、必要なほうですか？」

パールランド病院 医師 宮崎 憲一郎

はい！の方は年齢に関係なく自分を支える力が知らず知らずに落ちています。

デスクワークや車の運転椅子に背中を丸めて座り、疲れたら背もたれに体を預けたり、ソファーに座ってずっとテレビを見ていたりしませんか。

そんな習慣のある方は、**体幹筋力が衰えて前後方向に傾き不安定となり、重たい頭と上体をまっすぐ支えきれず腰や首が踏ん張っている状態で、慢性的な肩こりや腰痛に悩まされ、更にその状態が続くと骨の変形が起こって元に戻らなくなってしまいます。**

坐禅に「耳肩鼻臍（ヘソ）」という教えがあります。椅子に座る際は浅くちょこんと座るのではなく、座面一杯に深く座ってください。ここで、お尻を上げるのではなく、下がらないようにするのがポイントです。

それからおヘソを前に出していきます。若干上体を前傾になってそれから顔を上げながら胸を張るイメージです。そうすると腰が反って苦しい感覚があるかもしれません。そこからゆっくり息を吐いてお腹を凹ませていくと、ヘソの下（丹田）にしっかり力が入り肩の力が抜けて楽に座れるようになります。この時、耳が肩の上に、鼻の下におヘソがあるはずです。力が入っているのは、ヘソの下だけ。背中を丸めると丹田の力が抜けます。力が入れば鍛錬、抜けば衰えていきます。

お尻が下がらないようにして、肩幅位に両足を開き、両母趾を前に向け、わずかに両膝を曲げると、両足裏から両モモにかけて脚の内側に力が入っているのを感じられると思います。お尻を下げないように、両足の内側で床を踏みしめるように歩けば、歩行が安定し転ぶ危険性が減ります。

普段からキチンと座わっているかで、年齢を重ねた時に骨折の危険性を減らす事が出来るのです。

Nrs.による ミニコラム「高齢者の脱水と水分補給の必要性」

パールランド病院 2病棟2階 病棟主任 中原 麻偉華

高齢者はいろいろな要因が重なり、脱水になりやすい脱水弱者といえます。要因として、

1，【体内の水分量が減っている】

成人の体液量は体重の約60%ですが、高齢者では約50%と少なくなっています。体液は、筋肉に一番多く含まれますが、高齢になると筋肉量が減り、身体に水分を蓄えにくくなります。また、脂肪は水分を蓄えにくいため、筋肉が少なく脂肪の多い人は脱水に注意が必要です。

2，【喉の渇きに気づきにくい】

高齢になると、脱水状態になっても、口の渇きを感じにくくなります。喉が渇いていないからと水分を摂らないと水分不足になってしまいます。

患者様と日々関わる中で「病院は一日中エアコンが効いているから汗もかかないし、水分を無理に摂らなくても平気でしょ」と声をかけられた事がありました。実は汗をかいたと感じていなくても、人間の皮膚や肺からは一日約900mlもの水分が常に失われています。つまり、汗をかいていなくても、毎日1,000～1,500mlの水分補給を意識しましょう。

水分補給の工夫としては、次のようなものがあります。

- こまめに水分補給する
- いつでも水分が摂れるように手近に飲み物を用意する
- 食後満腹になって飲み物を飲みたがらない場合は、味噌汁などの汁物を薄味にして飲むよう勧める
- ティータイムに飲み物を楽しんでもらう
- 外出前後にコップ一杯の水分を飲んでもらう

脱水状態は脳梗塞や心筋梗塞の発症にも繋がるため、日頃から十分な水分補給を心がけることが重要です。

病院概要

病院名称	医療法人 猪鹿倉会　パールランド病院
指定許可	鹿児島県指定　認知症疾患医療センター
開　　設	昭和63年３月１日
診療科目	内科・精神科・脳神経内科・リハビリテーション科・歯科 ●臨床研修協力施設（厚生労働省発医政　第0331051号） ●消化器がん検診精密検査医療機関証（第0085号） ●日本認知症学会教育施設認定証（施設　第134号） ●日本老年精神医学会専門医認定施設（認施　第200092号）
病 床 数	400床…精神病床300床（認知症専門病床200床）、医療療養病床100床
併　　設	レストラン　　売店　　保育所（職員専用24時間対応）
関連施設	指定居宅介護支援事業所　　訪問看護ステーション

医療法人 猪鹿倉会
パールランド病院

〒891-1205　鹿児島市犬迫町2253番地
電話／099-238-0301　FAX/099-238-0117
https://www.pearlland.or.jp

認知症疾患医療センター
電話・FAX／099-238-0168

●指定居宅介護支援事業所パールランド
電話／238-0301　FAX／238-0117

●訪問看護ステーションパールランド
電話／245-4555　FAX／245-4556

病院概要　　スタッフ募集